



Data

監督: ローリーン・スカファリア
 原案: ジェシカ・プレスラー (ニューヨーク・マガジン記事『The Hustlers at Scores』)
 出演: コンスタンス・ウー/ジェニファー・ロベス/ジュリア・スタイルズ/キキ・パーマー/リリ・ラインハート/リゾ/カーディ・B/メット・トレイ/マデリーン・ブルーワー/トレイス・リセット/マーセデス・ルール

■■■ショートコメント■■■

◆1997年に東南アジアを中心に起きたアジア通貨危機を描いた問題提起作が『国家が破産する日』(18年) (『シネマ46』) だった。それに対して、2008年に起きたリーマンショックの引き金となったサブプライムローン問題を描いた問題提起作が、①『マネー・ショート 華麗なる大逆転』(15年) (『シネマ37』232頁)と②ドリーム ホーム 9.9%を操る男たち』(14年) (『シネマ37』236頁) だった。また、その対極をなす面白い「経済モノ」が、マイケル・ダグラスが主演した『ウォール街』(87年) だったが、さて本作は？

チラシによれば、本作は「ウォール街を震撼させた驚愕の実話を描くクライム・エンターテインメント！」だそうだが・・・。

◆オフィシャルサイトによれば、本作の「INTRODUCTION」は次の通りだ。

全米初登場 No.1&アカデミー賞大本命！

映画『IT/イット THE END“それ”が見えたら、終わり。』を押さえ初日ランキング1位(2019.9.13付 / Box Office Mojo 調べ) を獲得、映画評論家からも絶賛の声を集め、アナリストたちの予想を大きく超え、興行収入100億円を突破する大ヒットを記録。本年度の映画賞レースにも予想を超える勢いでノミネートや受賞が続いており、アカデミー賞&ゴールデングローブ賞も有力視されている。

実際に起きた事件の取材記事をもとに映画化

この映画は、2008年のリーマン・ショック後、急激に景気が悪化したニューヨークにて、ストリップクラブで働く4人のダンサーが中心となり、ウォール街の裕福な男たちから数年に渡って大金を巻き上げた、2013年に摘発された事件の実話に基づく。2013年から当事者や警察など関係者に取材を重ね、2015年に「New York Magazine」誌に掲載されたジェシカ・プレスラーによる記事「ザ・ハスラーズ・アット・スコア (原題: The Hustlers at

Scores) ” から着想を得て、製作された。

アメリカで強く支持される女性たちが豪華共演

主演・製作総指揮は、女優としても活躍するラテンの歌姫ジェニファー・ロペスが務め、世界的に大ヒットした映画『クレイジー・リッチ』のコンスタンス・ウーがダブル主演。現在アメリカでブレイクしている人気女性ラッパーのカーディ・B と、オリジナルの個性と存在感で高い人気を誇るシンガーでラッパーのリズが、本作で映画女優デビューをしたことも話題となっている。ラッパーのアッシャーと G イージーもカメオ出演。ミュージックビデオさながらのスタイリッシュな映像、リアーナ、ジャネット・ジャクソン、リル・ウェイン、ブリトニー・スピアーズほか、2000 年代前半のヒット曲やショークラブで定番のダンス・ナンバーがストーリーを彩る。脚本・監督・共同プロデューサーは、スティーヴ・カレルとキーラ・ナイトレイ主演による 2012 年の映画『エンド・オブ・ザ・ワールド』で映画監督デビューしたローリーン・スカファリア。女たちの女たちによる映画が完成した。

◆また、オフィシャルサイトによれば、本作の「STORY」は次のとおりだ。

刺激的な毎日、贅沢な暮らし、

煌びやかな世界の果てに彼女たちが見た景色とは。

幼少の頃に母に捨てられ、祖母に育てられたデスティニー（コンスタンス・ウー）は、祖母を養うため、ストリップクラブで働き始める。そこでトップダンサーとして活躍するラモーナ（ジェニファー・ロペス）と出会い、協力し合うことで大金を稼ぐようになり、姉妹のように親しい関係になってゆく。ダンサー仲間のダイヤモンド（カーディー・B）からもストリップでの振る舞いをレクチャーされ、デスティニーは祖母とともに安定した生活ができるようになる。

しかし 2008 年、リーマン・ショックによる影響で世界経済は冷え込み、ストリップクラブで働くダンサーたちにも不況の打撃が押し寄せる。シングルマザーとしての生活費や、収監中の恋人の弁護士費用など、それぞれの差し迫った事情で“お金が必要”というストリッパーたちに、ラモーナは「真面目に働いても生活が苦しいのに、経済危機を引き起こした張本人であるウォール街の金融マンたちは、なぜ相変わらず豊かな暮らしをしているのか」と言い、ウォール街の裕福な男たちから金を騙し取る計画を企てる。

◆また、ウィキペディアによれば、「本作におけるロペスの演技は絶賛されており」、「彼女のキャリア史上、最高の演技」と評されている。そのため、私は「こりゃ必見!」と思ったが・・・。

たしかに、導入部でジェニファー・ロペス扮するラモーナが見せるストリップの“ポール技”は御年 50 歳とは到底思えない演技（艶技?）。もっとも、日本とアメリカでは「ストリップ」の概念が根本から違うようだ。1972 年～74 年の司法修習生時代に有名になった、一条さゆりの『濡れた欲情』（72 年）をよく知っている私としては、本作に見る

ストリップの魅力はイマイチ。また私は1、2度しか行ったことがないが、それが大好きな私の友人（エロ友達）からよく聞いた日本式ストリップのステージと本作のストリップのステージとは大違い！

◆リーマンショックまでウォール街の面々がラモーナやデスティニー（コンスタンス・ウー）たちの得意先だったのは意外だが、バブル全盛期の日本では、大手銀行の“MOF 担”が大蔵省の役人を“ノーパンしゃぶしゃぶ”で接待していたのだから、それに比べるとかわいもの・・・？

◆ 他方、映画には（美女による）「復讐モノ」というジャンルがあり、ドイツ人美女ダイアン・クルーガーが第70回カンヌ国際映画祭で主演女優賞を受賞した『女は二度決断する』（17年）（『シネマ42』220頁）や、「ナシゴレン・ウェスタン」が注目されたインドネシア映画の『マルリナの明日』（17年）（『シネマ45』311頁）などがその代表。今年の4月に公開される第75回ベネチア国際映画祭コンペティション部門で2冠を獲得した『ナイチンゲール』（18年）もそれだ。しかして、本作もラモーナをリーダーとする美女軍団によるウォール街の男たちへの復讐劇になっていくので、それに注目！

◆しかし、私に言わせれば、彼女たちが復讐劇の根拠としている「ウォール街のヤツらは真面目な貧乏人からすべてを奪い、盗んだ金で遊んで。不公平でしょ？」は筋違い。だってサブプライムローンの崩壊もリーマンショックの発生も決してウォール街で働く男たちの罪ではなく、罪とされるべきは国の政策そのものなのだから。また、いくら「復讐」のためにウォール街の男たちから金を騙し取るとしても、本作で見せる手口はちょっとあくどすぎるのでは？

私もバブル時代には大阪の北新地で相当遊んでいたが、高級クラブの女たちに結託してこんな手口でやられていたら大変なことに・・・。そんな“自省”も含めて、いくら「実話にインスパイアされた真実の物語」だとしても、本作のような「復讐モノ」は願い下げだ。

2020（令和2）年2月20日記